

パワー・オブ・マントラ

EL PODER DE LOS MANTRAMS

サマエル・アウン・ベオール

パワー・オブ・マントラ

アクエリアスの新時代に生きるカルキ・アヴァターラ、サマエル・アウン・ベオールは語ろう。

ノーシス・ムーブメント、シヴァナンダ・アラヴァルタ・アシュラムの兄弟たちよ、またあらゆるスクール、組織、宗派の兄弟たちよ、耳を傾けて聞いてほしい。

人類は、超常的な、類まれな能力を発達させることができる。それは我々が超自然の力と見なしているものである。

超視覚：これによって超越した（高次の）世界や、そこに存在するものを見ることができる。

超聴覚：これによって内なる世界や、存在の声を聴くことができる。

直観：これは我々の心臓のチャクラと深い関係がある。

テレパシー：これも人類に存在しているものであり、このすばらしい力はへその少し上にある太陽神経叢と密接な関係がある。

また、あるチャクラは我々の経てきた数々の**過去生**を想い出すのに役立つ。そのチャクラは両方の肺に位置している。

これから述べるマントラによって、我々はそれらの能力を開発すること

ができる。「マントラ」とは、「パワーある言葉」という意味である。音は、明らかに現実的な形ですべての世界に影響を与えている。例えば、大砲の音は家の窓ガラスにひび割れを起こさせるが、柔らかい一言は怒りを鎮め、皮肉な言葉はそれを聞いた者に数々の感情を湧き起こさせる。このように、音は創造されたすべてのもののの中の、原因の中の原因である。

聖ヨハネも、「初めに言葉があった。言葉は神と共にあった。言葉は神であった。この言葉は神と共にあった。すべてのものはこれによってできた。できたもののうち一つとしてこれによらないものはなかった」と語っている。(『ヨハネ』 1:1-3)

以上のことから、マントラとはパワーある言葉だということがわかるだろう。それらの言葉や文字、あるいはいろいろな音の組合せによる振動によって、人類の潜在能力を目覚めさせることができるのである。

ではまず初めに、超視覚を目覚めさせるのに役立つマントラから見てみよう。

* * *

超視覺

この感覚器官で、我々は「超常（高次）」の世界を見ることができる。この器官は脳下垂体と深い関係があり、脳下垂体はちょうど我々の眉間に位置するところにある。この腺の基本的な母音は「^イI」である。神聖な超視覚に関するマントラはすべて、この母音が基になっている。母音「I」は次のように発音する。

$$1 \quad \cdot$$

$$1 \quad 1 \quad 1 \quad 1 \quad 1 \quad 1 \quad 1 \quad 1 \quad \cdot \quad \cdot \quad \cdot \quad \cdot \quad \cdot \quad \cdot \quad \cdot \quad \cdot$$

(上記において繰り返し用いた続け字は、のばして発音する)

この音は何度も繰り返し発声することができる。またいくつかの子音と組み合わせることによって、驚くべき効果がもたらされる。このようにしてマントラは作られる。

短期間で超視覚の開発ができるマントラがある。それは「^{イシス}ISIS」である。イシスはエジプトの地で深く崇拝されていた女神である。そのイシスのヴェールを上げるのに成功した者は、誰であろうと超自然の世界を見ることができる。我々はイシスのヴェールを上げなければならない。そしてマントラを使うことを覚えることが緊急に必要である。母音「I」はマントラ「ISIS」の基礎である。このマントラは次のように発音する。

$$I \overset{1}{I} \overset{1}{I} \overset{1}{I} \overset{1}{I} \overset{1}{I} \overset{1}{I} \overset{1}{I} \overset{1}{S} \overset{2}{S} \overset{2}{S} \overset{2}{S} \overset{2}{S} \overset{2}{S} \overset{2}{S} \overset{2}{S} \dots$$

IIIIIISSSSSSSS

「^スS」はソフトに、静かに、蛇が出す音のように「スーッ」と発音する。
「S」を強く振動させることによって、ちょうど眉間の位置に驚くべき連

の花が生じる。このエクササイズを続けていけば、やがて聖なる超視覚が開発され、超自然の世界を見ることができるようになるだろう。そして生と死に関するすべての神秘があなたの前に、目に見える現実として現れるだろう。

もう一つ、聖なる超視覚を目覚めさせるための重要なマントラがある。
「^{スイーラー}SUIRA」である。これは次のように発音する。

^{スー}SSSS^{イー}SUI^{ルルラー}IIIIII・・・・^{ルルラー}RRRRRAAAAA・・・・

(【ロゴス・マントラ・テウルヒア】第7章参照)

このマントラを毎日30分発声するとよいだろう。重要なことは、飽きずに、粘り強くやっていくことである。不屈の力を養うことは、我々にとって何よりも大切なことである。兄弟たちよ、このようにして能力を獲得することができるのである。それには、首尾一貫した堅実さと誠実さ、そして深い内的信仰心をもって行うことが何よりも大切である。

もう一つ超視覚開発に重要なのは、文字「R」である。この「R」を発声するための大切なポイントは、とてもシャープに（鮮明に、カン高く）、鋭い音調で行うことである。小さい子供がやるように（巻き舌で）次のように発音する。

^{ルルラー}RRRRRRR・・・・

充分シャープに発声できただろうか。これは男性にとっては難しいかもしれないが、超視覚開発には欠かせない音である。この音によって、速やかに超視覚を目覚めさせることができるだろう。

これらのマントラをアパートや寝室で唱えることができるが、もし周りの人に聞かれたくないのなら、それを防ぐ簡単な方法がある。ラジオの音量を大きくしておけば、自分の声が周りに聞こえるのを防ぐことができる。

現代社会の中で自然から離れて生活している以上、このようなことは必要である。我々は昔のインドやチベット、古代イスラエルにいたのではない。その頃は誰もが、何をやっているのかという他人の目を少しも気にせずに、このようなエクササイズをすることができた。

兄弟たちよ、現代は、このやりにくい時代の中では、できる限り最善の方法で自分をコントロールしていく必要がある。

では次に超聴覚について学ぶことにしよう。

超聴覚

超聴覚とは、超常的な世界において、音を聴くための能力のことである。超聴覚を開発した人は、肉体から離れた者の声、天使や座天使たちの声、チェルビムやセラフィムたちの声を聴くことができる。

このすばらしい能力は、まさに甲状腺にある。甲状腺は喉の中にある小さな器官であるが、生物学的ヨードを分泌するといった重要な役割を果たしている。この腺に驚くべきチャクラが存在し、ここが覚醒されると超常的な声を聞くことができる。

この超聴覚を目覚めさせるマントラは数多くあるが、そのうちのいくつかをここで紹介しよう。

まず、「^{エー}E」から見てみよう。「E」は超聴覚に関するすべてのマントラの基礎となるもので、次のように発音する。

^{エー}EEEEEE・・・・

これは何回も発音し、10分、15分、あるいは30分位続ける。この音を発声し終わって、もう一度酸素を入れる必要があるときは、鼻孔から息を吸って、そして息を出しながら、また次のように発音する。

エー
EEEEEEE・・・・・

これは超聴覚のための基本的な音である。またこの能力を開発するための他のマントラを見てみよう。

アウム チヴァ トゥン エー
AUM — CHIVA — TUN — E

次のように行う。

アー ウー ムー
AAAAAAUUUUUUUMMMMM・・・・・
チー ヴァー
CHIIIIIVVVVAAAAAAA・・・・・
トゥー ン
TUUUUUUUUNNNNNNNNN・・・・・
エー
EEEEEEEEEEEEEEEEEE・・・・・

(『ロゴス・マントラ・テウルヒア』第9章参照)

実際に実践すれば、このマントラがいかに驚くべきものか、またそのヴァイブレーションがいかにおそるべきものかわかるだろう。このマントラによって超聴覚を開発することができる。

親愛なる兄弟たちよ、超聴覚を目覚めさせなさい。繰り返し言うが、超常世界の声を聴くことができるようにならないといけない。超越的な、類まれな能力を開発するまで、絶え間なく、常にマントラを唱えなさい。

超聴覚を開発するための、極めて重要なやり方がもう一つある。それはマントラの発声と、祈りを伴った瞑想を一緒に行うものである。そのとき「E」と「N」の二音を詠唱する。次のように発音する。

エー ン
EEEEEEENNNNNNN・・・・・

瞑想と祈りを組み合わせて発声するならば、ごく短い間に能力は開発されるだろう。

親愛なる兄弟たちよ、次は直観について見てみよう。

直 観

直観とは、何であろうか。直観とは、推論という気の滅入るようなプロセスを経ないで直接に物事を知る力を与えてくれるもの、と言えるだろう。例えば「これは白い。なぜなら白いから」というようにである。

直観はハートの中で起こる。ハートのチャクラは直観という尊い能力を我々に授けてくれる。直観を開発するマントラは神聖な「OM」である。次のように発音する。

オー ム
OOOOOOOMMMMMMM・・・・・

「O」はハートのセンターにとって、極めて重要な音である。

まずハートのマントラである母音「O」から始めよう。鼻から酸素を適度に吸い、次のようにゆっくりと、はっきり発音しながら息を吐いていく。

オー
OOOOOOOOO・・・・・

兄弟たちよ、熱心に発声しなさい。それによって直観能力を目覚めさせることができるだろう。また、「O」と「N」を組み合わせることもできる。次のように発声する。

〇〇〇〇〇〇〇[＊]〇^ン〇〇〇〇〇〇〇

このようにすると、「O」は鐘の音のような響きになる。これは「N」のもつ効力が母音に鐘の音のような響きを与えるためである。

我々が直観を手に入れるためには、イメージーション、祈り、瞑想、そして静寂のうちにあることが大切である。このことを知らなければならない。飽きずに発声を続けることが大切である。

では次にテレパシーのについて学ぶことにしよう。

* * *

テレパシー

道を歩いているとき、ほんの数分前に考えていたその人に突然ばったり出会ったということが何度かあるだろう。これは疑いなく、その人とテレパシーでコミュニケーションしていたということである。

テレパシーによって、離れたところにいる人々の考えをキャッチすることができる。これはとても興味深い能力である。

テレパシーを開発したければ、テレパシーのものはチャクラにあるということ、そしてそのチャクラはちょうど何の上にあるということを知る必要がある。テレパシーと関係のあるチャクラは太陽神経叢である。

この太陽神経叢は、実際人間の有機体の中にあり、既に言ったように何の少し上に位置している。テレパシーを開発するエクササイズはたくさんあるが、そのうちの二つを教えよう。

座り心地のよい椅子に腰掛け、東を向き体をリラックスさせる。太陽神経叢が発光しているのをイメージし、さらに太陽神経叢が左から右へ回転する蓮の花だと想像する。ためらうことなくこのエクササイズを続ける。そして美しい青と金色の光線を想像し、これらのすばらしい光線が自分の太陽神経叢にもたらす感覚をそっくり感じる。

飽きずに練習するように。30分行えば充分である。兄弟たちよ、これ

が最初のエクササイズである。

二番目のエクササイズは、太陽神経叢に充分集中し、母音「^ウ」を次のように発声する。

^ウUUUUUUU・・・・

また、ベルの音のように響かせるために、この母音に「^ン」を付け加えることができる。次のように行う。

^ウUUUUUUUN^ンNNNNNNN・・・・

飽きずに、熱心実践しなさい。兄弟たちよ、重要なことは、投げ出さないことである。最初から最後まで、粘り強くやることが肝要である。多くの兄弟たちがこれらのエクササイズを始めたが、やがてはそれに飽きてしまった。

真に自分の力を開発したければ、飽きることなく、不屈の精神で、非常に粘り強く続けなければならない。親愛なる兄弟たちよ、粘り強さなしでは霊的な超常能力を目覚めさせることは不可能である。

我々は能力を開発するためのマントラを教えたが、もしあなたが粘り強く行う人でないなら、我々は時間の無駄遣いをしたことになる。あなたにとって必要なことは実践すること。実際に行うことである。

親愛なる兄弟たちよ、次に過去生について分析していこう。

* * *

過去生の記憶

この教えを受けているあなたは、もちろん我々の本をすでに読んでいることだろう。つまり『完全なる結婚』や『ベルの革命』、『ゾディアカルコース』、『火のバラ』あるいは『内分泌腺学と犯罪学に関する論文』などである。しかしまだであれば、それらの勉強をお勧めする。

転生は事実である。ある人々にとって、生まれ変わりは一つの理屈であったり、またある人々には迷信であったり、他の人々には信念や信仰であったりする。しかし自分の過去生を思い出した人々にとって、生まれ変わりは一つの事実なのである。

肺のチャクラを目覚めさせることができると、自分の過去生を思い出することができる。左右両方の肺に磁氣的センターがある。この二つの肺のチャクラは驚くべきものである。兄弟たちよ、ここが覚醒すると過去の生まれ変わりを正確に思い出することができるだろう。

母音「^アA」はこの肺のチャクラを振動させる。次のように発音する。

^アAAAAAA・・・・

(編者注：意識を背中において、右肺は右廻りに、左肺は左廻りにチャクラを回転させるようにイメージする。)

さらに「N」を付け加えれば、母音をベルの音のように響かせることができる。この場合次のように発音する。

ア^ーAAAAAAAAANNNNNNNN・・・・・・

兄弟たちよ、いかに容易かわかるだろう。実践しなさい。ドクター・クルム・ヘラーは、毎日一時間唱えるようにと弟子たちにアドバイスし、次のように発声するよう指示した。

イ^ーIII・・・・、エ^ーEEE・・・・、オ^ーOOO・・・・、ウ^ーUUU・・・・、ア^ーAAA・・・・

また、それぞれの母音が頭から足先までたどるように行う、と助言した。その意味するところは、音と一体化し、それが頭から足の先まで流れているように想像するということである。そしてそれによって、人のすべてのパワーが目覚めるだろうというのである。ドクター・クルム・ヘラーの方法は下記のとおりである。

イ^ーIIIIIIIIII・・・・・・
エ^ーEEEEEEEEEE・・・・・・
オ^ーOOOOOOOOOO・・・・・・
ウ^ーUUUUUUUUUU・・・・・・
ア^ーAAAAAAAAAA・・・・・・

また、弟子は毎日一時間発声しなければならないとドクター・クルム・ヘラーは言ったが、これは偉大なるマスター、ウイラコッチャ（クルム・ヘラー）が教えた方法である。

サンタマルタのシエラネバダ（ここにノーシス「S. S. S.」がある）にいる我々ノスティックの兄弟たちは、チェーンを組んで発声したり、一人ひとりが個人で行ったりしていた。

我々は「I, E, O, U, A」の発声のために、たくさんのマントラを使ってきた。それらを組み合わせたり、例えば「CH」と組み合わせたりしたが、その結果はいつも驚くべきものであった。

そこの「S. S. S.」の兄弟たちは神秘的な力を開発した。彼らは高度に進歩し、超視覚や超聴覚を得、テレパシーを開発し、直観的になり、

過去の生活も思い出し、意のままに肉体に出入りできるようになった。言い換えれば、彼らは自分自身を広げたということであり、アストラル世界に自分を入れる方法を知っているということである。では次に進もう。

マントラ「CH^{イス}IS, CH^{セス}ES, CH^{コス}OS, CH^{クス}US, CH^{チャス}AS」はパワーを目覚めさせるのに驚くべき効果がある。そのマントラは次のように発声する。

チ^イーCHIIIIIIIS^スSSSS・・・・・・
チ^エーCHEEEEEES^スSSSS・・・・・・
チ^オーCHOOOOOOS^スSSSS・・・・・・
チ^ウーCHUUUUUUS^スSSSS・・・・・・
チ^アーCHAAAAAAS^スSSSS・・・・・・

（『ロゴス・マントラ・テウルヒア』第7章参照）

母音と「CH」のこの組み合わせに、さらに「S」を付けたものは並外れた驚くべき効果がある。チャクラはパワフルに回転し、内的感覚は目覚める。しかしながら兄弟たちよ、繰り返し言うが、飽きずに、投げ出したりせずに関心しなさい。なぜなら初めに言ったように、人はプラクティスをその生涯にわたって行うべきだからである。朝食を摂るのが習慣のように、これらのプラクティスを日課としなければならない。

人は人生で、実に多くの悪習を身につける。実際、多くの人が暮らしの中で飲酒やタバコなどの悪習を選んでいる。それらの悪習を捨てなさい。マントラを唱える方が、バーや居酒屋にいるよりはるかに良いことである。マントラのプラクティスを充分行っていると、ついにはプラクティスをしていない日はどうも気持ちが悪いと感じるようになる。兄弟たちよ、辛抱強く、粘り強くありなさい。これが私からあなたたちへのアドバイスである。

※【S. S. S.】SUMUN SUTREMUN SANTUARIUM
マスター・サマエルがノーシス運動のために建設するように命じた地下神殿。ベルリンの「S. S. S.」はアストラル界にある至聖所であり、そこには様々な国から多くの志願者が肉体が休んでいる間に訪れる。

アストラル プロジェクト

兄弟たちよ、頭だけでもを考えるのを止めるときがきた。我々は緊急に現実問題に対して取り組む必要がある。我々の生活というのは、現実的である。兄弟たちよ、理論づけをしたり、推測であれこれ考えるのは、すでに過去のことである。

神秘学においては、現実的になるべきである。なぜなら神智学が多くを語っている内的な世界を、人類が見る必要があるからである。

生徒が自分のアストラル体を訓練することは絶対必要である。あなた方が肉体、霊、魂のトリオを知らないはずはないであろう。確かに霊はアストラル体で包まれており、まさに不思議な体である。その体によって、我々は肉体に自由に出入りすることができる。また高次元の世界を訪れたり、他の惑星に移動することもできるのである。

こういったことが現実的ということである。兄弟たちよ、考える代わりにヒーナス状態の寺院を訪れ、マスターたちやエロヒムに面と向かって話をし、彼らの口から直接耳へ教えを受ける方がよいであろう。

兄弟たちよ、現実的になるべきときがやって来た。今や、レールに乗って実生活を行い、理論はわきに追いやるべきである。現実的に時代に合わないスクールは忘れ去られるだろう。つまりそれらは時代遅れのスクール

として取り残されるということである。今日においては、生活は100パーセント实际的である。アストラル体で移動することを習いなさい。それでは、ここでいくつかの方法を教えよう。

ファラオン
マントラ「FARAON」

1. 仰向けの状態で横になる。
2. 筋肉をリラックスさせる。
3. 目を閉じる。
4. 自分自身を眠りに誘う。
5. そこでアストラル・プロジェクション（幽体離脱）のための驚異的なマントラ「FARAON」を発声する。次のようにする。

ファー
 FAAAAAAAAAAAAAAAAA
 ルルルラー
 RRRRRRRRAAAAAAAAAA
 オー ンー
 OOOOOOONNNNNNNN

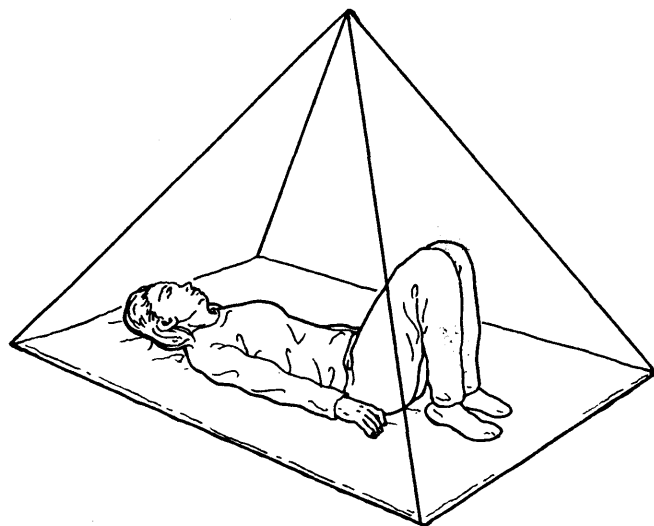
6. 両膝を曲げ、足の裏は床に付けたままにする。このとき、膝は縦に曲げる。そしてまたマントラを次のように繰り返す。

ファー
 FAAAAAAAAAAAAA・
 ルルラー
 RRRRRRRAAAAAA・
 オー
 OOOOOOONNNNNN・

(『ロゴス・マントラ・テウルヒア』第8章参照)

何回も何回もこのマントラを繰り返さない。よりソフトに、あるいはメンタリーに（声に出さないで）唱えてもよい。膝を立てたまま、まどろんでいく。自分を眠気に誘っていくのである。そしてまどろんできたら、エジプトのピラミッドを鮮明に思い浮かべなさい。

これは難しくはない。兄弟たちよ、「難しくない」と自分に言い聞かせなさい。すべての精神的な緊張を解き、眠気を感じなさい。その結果はすばらしいものである。自分のアストラル体に包まれ、内的世界の中で目覚めるだろう。それが、いつ、どのようにして行われたかがわからなくても自分の肉体を離脱しているのである。まさに、世界中どここの国にしようとも自分自身で、アストラル体で意識を持って目覚めるのである。



次にアストラル体で抜け出るための他のマントラを説明しよう。
まず、自信を持ちなさい。そして自分が聞いていることに注意を払わなければならない。

世界に存在する最も偉大なパワー、アストラル体で移動するための最も重要な鍵、それは性エネルギーである。我々がこういって奇妙に感じるかもしれないが、よく注意を傾けてほしい。

創造的エネルギー、シグモント・フロイトが言ったあの有名な性的リビドー、つまり性エネルギーは、発生におけるリビドーの変換の過程でクリム(Krim)に似た音を生じる。

兄弟たちよ、アストラル界に入るために、この鍵を使うことができる。メンタリーに、「LA-RA」の音節を響かせる。次のように行う。

ラー
LAAAAAAAAAAAAA・・・・・・・
ルルラー
RRRRRRRAAAAAA・・・・・・・

(『ロゴス・マントラ・テウルヒア』第8章参照)

もちろん、このエクササイズは粘り強く続けていかなければならない。メンタリーに発声しながら行う。

この二つの音節は大変価値あるものである。性エネルギーを激しく振動させるパワーを持っているからである。それによって——論理的に言うならば——エネルギーのレベルが上がり、振動が高められるやいなや、FOHAT（生命の普遍的な火）のものすごい歯擦音、「^{スー}S」の音が生じるのである。この音は次のように振動させる。

^{スー}SSSSSSSSSS・・・・・・・

この音は、まさしく小脳内で振動する。それはあたかもコオロギの鳴き声や、圧搾空気ブレーキを掛けたときの音に似ている。

もしこの音を感じたり、あるいは聞こえたりしても驚くことはない。意志を使ってその音をさらに大きく響かせることができる。そしてその音が非常に強く振動し、響きが充分大きくなってきたとき、まさにそのとき、ベッドから体を起こすのである。聞いたとおり、ベッドから起き上がるのである。肉体ごと起きてしまったのだろうか、どうやって起きたらよいのだろうか、などと考える必要はない。ほとんどの学徒は細かなことや、ためらい、内心の不安に執着する。こだわりを捨てなさい。単に起き上がりなさい。繰り返し言うが、起きなさい。起き上がれば、自然の力がアストラル体を肉体から離してくれるだろう。しなければならないことは、ただ起き上がることだけである。もちろんここで言っているのは、心の中で起き上がる、ということではない。今まで我々が言ってきたことを、現実に実行すべきだということである。ベッドから起き上がりなさい！

起き上がること、このことに関心を持ちなさい。あなたが為すべきことはまず起き上がることである。そして寝室から出る前に、空中に浮くつもりでジャンプしてみるのである。もし浮いたなら、それは自分がアストラル体にいるということである。もし浮かなかつたらベッドに戻り、繰り返し試みる。もう一度言うが、うんざりしないように。たとえ今日できなくとも、明日にはできるようになるだろう。

ある学徒はすぐにできるようになるが、できるのに何か月も、あるいは何年も要する者もある。いずれにしろ辛抱強さが成功への鍵である。

従って、音を感じたらベッドから起き上がりなさい。そして部屋を離れ

るが、その前にその寝室の中でジャンプしてみるのである。浮かぶようにジャンプしてみる。もし浮かべばそれはアストラル体にいるということである。浮かばなければ、明らかにもう一度初めからやり直す必要がある。ベッドに戻りなさい。

* * *

識別の鍵

アストラル体で出ているかどうかを知るための、もう一つの効果的な鍵は“識別”にある。

例えば昼間道を歩いているときに、何年も会っていない友人に突然出会ったとしよう。兄弟よ、そこで、ただちに正しい反応をしなければならない。「自分は今アストラル体なのだろうか？ それとも肉体でいるのだろうか？ 肉体の外側にいるのだろうか？」と。そして浮くつもりでジャンプしなさい。もし浮いたなら、明らかにアストラル体にいるということである。

あるいは散歩をしているとき、20～30年前に死んだはずの友人に出会ったとする。そのようなとき、私は全世界にむけて警戒を呼び掛け、自分自身に注意を喚起する。すなわち「これは本当のことだろうか？」と自分に訊いてみる。そしてジャンプする。もし浮いたなら、それはアストラル体にいるということである。

また、通りを歩いていて突然大勢の人々に出くわしたら、兄弟よ、少し考えてみなさい。この機会をどのように利用することができるか。いくらでも自分に問うことができるだろう。「ここで自分は何をしているのだろうか？」そしてすぐ試してみなさい。浮くつもりでジャンプする。もし浮いたなら、それは明らかにアストラル界にいるということである。

昼間行ったことはすべて、夜、夢の中で繰り返される。昼間このエクササイズをするのが習慣になったら、明らかに、夜眠っている間にもそれと

イエス・キリストがペテロに、またヨハネに、あるいはトムや、ディック、ハリー、ヨセフに生まれ変わった、という人々がいるが、どうしてそういうのか私にはわからない。また他にどのような人々がいるというのだろうか。人々はたくさん間違いを犯すものである。この時代においてさえ、キリストや福音書を信じようとしない人々がいる。イエス・キリストは復活したのである。彼は肉体を持って、それを失わずにシャンバラで生きている。シャンバラとは、ヒーナスの状態にある秘密の領域のことである。隠された領域である。

それでは、兄弟たちよ、これまで私が書いてきたマントラ —— アストラル体で抜け出すための —— を使うことを覚え、エクササイズを実践しなさい。また神聖な存在の方々を招喚して、アストラル体で抜け出る方法を教えてもらうこともできる。それは容易である。ハルボクラテスを招喚したならば、ハルボクラテスは必ずアストラル体で抜け出る方法を教えてくれるだろう。

* * *

ヒーナスの科学

まず初めに、学徒はアストラル体で抜け出ることを学び、その後、肉体ごと四次元に移行することを習う。

これは少々信じがたいことだろう。肉と骨からできた肉体をアストラル世界に移行するなどとは、全く困難に違いないと思うだろう。否、それは簡単である。容易にできるのである。

自分の肉と骨からなる体をもって内的世界に入りたいと思う者、つまり肉体ごとヒーナスの状態に移行することを習いたい者は誰でも、その鍵を知ることができる。

ハルボクラテスが、肉体ごと移行する方法を教えてくれる。ハルボクラテスは、ある場所から他の場所へほんの瞬間に移動（トランスポート）する方法を教えてくれるのである。我々の肉体を高次の世界に移行させるのを援助してくれる。

肉と骨からなる体をもって高次の世界に旅することを習う者は誰でも、ただちに光明を得ることができるだろう。イエス・キリストは、数々の驚くべきことを行った。イエスは水の上を歩いたが、それは自分の体を内的世界に移行させたのである。

ペテロもそれを学んだが、最初は大変苦勞をした。イエスが湖の上を歩いた晩のことを思い出してみよう。なんと興味深いことであろうか。彼は

ヒーナス状態の肉体を使って歩いたのである。ペテロも努力してみたが、不幸にもペテロはそれを疑ってしまった。もし彼が疑わなかったならば、沈んでしまうこともなかっただろう。イエスはペテロを助けなければならなかった。そして彼に「信仰のうすい者よ、なぜ疑ったのか」と言った。

肉体をヒーナスの状態に移行するための鍵は「信仰」である。信じる力のない者は、行為をしそこなう。信じることは、太陽のパワーである。これは灰色の信仰について言っているのではなく、意識ある信仰について言っているのである。例えば誰にとっても、 $2 + 2 = 4$ であることは間違いないだろう。もし私が計算をしたとしても、それが答えである。これが意識ある信仰である。灰色の信仰はそうでない。我々は「意識ある」信仰について語っているのである。

肉体のままで内的世界に入りたければ、次のように行うことができる。

左側を向いて横になる。左手のひらを上にして枕の上に置き、その上に頭を休める。そこで次のようにハルボクラテスを招喚する。

ハ　　ル　　ボ　　クラ　　ティ　　ス　　
HAAAARRRRPOOOOCRATIIIISSS...

HAAAARRRRPOOOOCRATIIIISSS...

HAAAARRRRPOOOOCRATIIIISSS...

クリストによって、クリストによって、クリストによって、

われはあなたを呼ぶ...

絶対なるものによって、絶対なるものによって、絶対なるものによっ

て、われはあなたを呼ぶ...

ハルボクラテス、われを助けたまえ、わが肉体がヒーナスの状態に入るのを助けたまえ。

兄弟たちよ、徐々に、うとうととまどろみ始めなさい。しかし意識はハルボクラテスに集中したままで。次第に眠くなってきた、いくらかまどろんだと感じたとき、眠りに入る最初のきざしを感じたとき、全幅の信頼をもってベッドから起き上がるのである。夢遊病者がするように起き上がるのである。しかしそれはほんの少し眠気を保ちながら行いなさい。

起き上がったら、部屋や寝室の中を何歩か歩き回る。そして外の通りに出る前に、自分は本当にヒーナスの状態にいるのかどうかを、寝室で前述のテストを行って確かめてみた方がよいだろう。さもなければ、—— 道ば

たで一体何をするというのだろうか。—— ジャンプし、もし自分が浮いたなら、それはすでに肉体は内的世界に入っているということである。そうしたら静かに通りに出て、ヒーナス状態で存在する寺院に向かって進むことができる。

チャブルテベックの森にすばらしい寺院があることを思い出しなさい。チャブルテベックの寺院はおそるべきものであり、不思議なバラ十字の寺院である。その寺院の長はマスター・ラスムーセンである。彼を訪れることもできるが、しかし中に入るのを許されるかどうかはわからない。すべては、あなたが正直な人生を送っているか、準備されているか、あるいは精神的な人物であるか否かによる。あなたが聴く耳をもった姉妹であるか、徳があり純粋な者であるかどうか、事実、それだけが寺院に入ることができるための唯一の方法である。さもなければ、中に入ることはできない。とにかく、やってみることである。

そこでもし、彼らにチャブルテベックに入るのを許されなかったとしても、ヨーロッパ、アジア、アフリカ、あるいは自分の行きたいところへ旅をするという喜びを満喫することができる。

ドクター・クルム・ヘラーは、ハルボクラテスを招喚する間、眠気の中にいることは必要であるが、しかしまた輝く空色の卵をイメージし、その卵の中に自分が入っているのを想像すべきだとも言っている。これはドクター・クルム・ヘラーが教えてくれた方法である。

これを実際に行うためには、本当に鶏卵を持ってきて工作する。そのとがった方の先に小さな穴を開けるが、これをする前に、卵をなまぬるいお湯に通す。そしてそっと、とても静かに黄身と白身を抜き出し、中身を空にする。その殻をベッドの近くやナイト・スタンド、あるいは寝室用小卓の上に置く。

重要なことは、自分が常に卵の形をしているということである。その外皮はハルボクラテスのパワーに関係し、ハルボクラテスの力はまさに火に関係している。

古代、地球は卵の形をしていたと言われている。卵はミイラの頭の上に置かれていた。またブラフマーの金の卵を思い出してみよう。卵の中にはすべての創造のパワーが内包されている。ハルボクラテスは卵の中に宿るそれらの力を操縦する方法を知っているのである。このように卵の中にす

べての創造の力が宿しているとしたら、そこからおそるべきパワーが生み出される、というのは納得のいくことである。

ハルボクラテスは実際にこれらのパワーを操縦する方法を知っていた。観察してみれば、すべてのものは卵から来ていることがわかるだろう。人、それ自身も卵から出て来た。母体の卵子は真実、卵そのものである。この卵が受精し、あとはすべての生物学者が知るところである。

また植物を見てみると、その種子はまさに卵である。種子から、植物は発芽する。つまり植物は種子からやって来るのである。すべての存在は卵からやって来る。それゆえ卵は物質を象徴する。もしハルボクラテスが卵のパワーを持っているとしたら、彼はその力を物質に及ぼすことができるだろう。そして彼が物質に及ぼすパワーを持っているとしたら、あなたの肉体をヒーナスの状態に置くことができるだろうし、あなたの肉体を四次元に移行させることができるだろう。兄弟たちよ、これはまさに理にかなったことである。分析してみれば、それが論理的だということがわかるだろう。我々は何も不合理なことを言っているのではない。

もちろん唯物主義の科学者たちにとって、このことは不条理なことだろうが、我々は唯物主義の科学者たちとは少々意見を異にするものである。